

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は以下のとおりです。

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報

1. 基本的な考え方

当社は、「ロック・フィールドの理念」「ロック・フィールドの価値観」に則り、食品に携わる企業として健康で安心・安全な商品を提供するのはもちろん、法令や社会のルールを守り、経済的、社会的、環境的、3つのバランスの取れた企業活動を行い、ステークホルダーの信頼を得ることに努めております。そのために、コーポレート・ガバナンスの充実・強化を継続して行い、経営の透明性、健全性の確保を図っております。

ロック・フィールドの理念

「私たちは、SOZAIへの情熱と自ら変革する行動力をもって、豊かなライフスタイルの創造に貢献します。」

ロック・フィールドの価値観

「健康」「安心・安全」「美味しさ」「鮮度」「サービス」「環境」

当社は、理念・価値観に基づき、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図るための枠組みと運営方針を、「ロック・フィールド コーポレート・ガバナンス基本方針」(以下、「コーポレート・ガバナンス基本方針」といいます)に定めております。

(<https://www.rockfield.co.jp/company/compliance/>)

【コーポレートガバナンス・コードの各原則を実施しない理由】更新

【コーポレートガバナンス・コード(2021年6月版)に基づき記載しています。】

【補充原則4-1-3 取締役会の役割・責務(1)】

当社は、代表取締役が、自らの後継者育成に関する責任を負うこととしております。現時点では最高経営責任者等の後継者についての明示的な計画はございませんが、執行役員制度を導入し取締役会に参加させるなど、経営陣幹部の後継者育成に努めております。また、任意の指名・報酬委員会にて、具体的な後継者像について検討をしております。今後は育成計画についても検討を進めてまいります。

【補充原則4-2-2 取締役会の役割・責務(事業ポートフォリオ戦略の監督)、補充原則5-2-1 経営戦略や経営計画の策定・公表(事業ポートフォリオの基本方針・見直し状況)】

当社は、惣菜事業の単一セグメントであり、ブランド別、販売チャネル別、商品カテゴリー別等の観点から事業状況の把握に努めております。

一方で、事業ポートフォリオとしての体系的な整理や、それに基づく経営資源配分の最適化については、今後の課題と認識しております。

取締役会においては、事業構成や収益性に関する分析の高度化を進めるとともに、外部環境や市場動向を踏まえた経営戦略の見直しを適切に監督してまいります。

これにより、資本効率の向上および企業価値の最大化の実現に努めてまいります。

【原則4-11 取締役会・監査役会の実効性確保のための前提条件】

当社は、取締役会が会社の経営上の重要事項の決定と執行に対する監視・取締役相互の監督の役割を果たすため、取締役会全体として多様な知見と経験がバランスされるよう構成しており、今後も適切な候補者の選任に向けた取り組みを継続してまいります。国際性の面は、海外事業の規模の拡大に応じて随時検討を行ってまいります。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示】更新

【コーポレートガバナンス・コード(2021年6月版)に基づき記載しています。】

【原則1-4 政策保有株式】

当社の政策保有株式に関する方針について、当社ウェブサイトにて公表しております「コーポレート・ガバナンス基本方針」の第5条及び第6条に記載しておりますので、ご参照ください。また、政策保有株式の保有の適否の検証結果について、有価証券報告書にて公表しておりますので、ご参照ください。

有価証券報告書(<https://www.rockfield.co.jp/ir/library/securities/>)

【原則1-7 関連当事者間の取引】

当社では、当社が役員や主要株主等との取引(関連当事者間の取引)を行う場合においての手続きについて、当社ウェブサイトにて公表しております「コーポレート・ガバナンス基本方針」の第7条に記載しておりますので、ご参照ください。

【補充原則2-4-1 中核人材の登用等における多様性の確保】

当社は、中核人材の登用等における多様性の確保に関する考え方について、当社ウェブサイト公表しております「コーポレート・ガバナンス基本方針」の第10条に記載しておりますので、ご参照ください。

女性の活躍促進については、従来からその重要性を認識し、管理職・監督職の育成・登用や、中長期的な企業価値の向上に向けた多様性の確保のための仕事と家庭の両立を支援する社内環境整備に積極的に取り組んでおります。

女性の管理職・監督職の現在の登用状況と目標は以下のとおりでございます。

<2026年4月30日現在> <2030年目標>

女性の管理職……………17.4% 25.0%

女性の監督職……………32.7% 35.0%

外国人、中途採用者については、積極的な採用に取り組んでおりますが、中核人材の登用等においては国籍や採用時の状況によって区別せず、個人の能力等により決定しておりますので、具体的な目標設定や状況の開示は実施しておりません。

【原則2-6 企業年金のアセットオーナーとしての機能発揮】

当社は、特定の企業年金基金に加入しておりませんが、従業員の資産形成のため企業型確定拠出年金制度を導入しております。したがって、企業年金の積立金の運用はなく、財政状況への影響もありません。

【原則3-1 情報開示の充実】

(1) 会社の目指すところ(経営理念等)や経営計画

当社は、会社の目指すところ(経営理念等)や経営計画について、当社ウェブサイト及び統合報告書P3、P28～P36に公表しておりますので、ご参照ください。

会社の経営理念等(<https://www.rockfield.co.jp/company/philosophy/>)

統合報告書(<https://pdf.irpocket.com/C2910/KfQV/sGqa/wKLT.pdf>)

(2) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針

当社は、コーポレート・ガバナンスに関する基本方針について、当社ウェブサイトにて公表しております「コーポレート・ガバナンス基本方針」の第1条に記載しておりますので、ご参照ください。

(3) 取締役会が経営陣幹部・取締役の報酬を決定するに当たっての方針と手続

当社は、取締役会が取締役の報酬を決定するに当たっての方針及び手続について、当社ウェブサイトにて公表しております「コーポレート・ガバナンス基本方針」の第20条に記載しておりますので、ご参照ください。

(4) 取締役会が経営陣幹部の選解任と取締役・監査役候補の指名を行うに当たっての方針と手続

当社は、取締役会が経営陣幹部の選任と取締役・監査役候補の指名を行うに当たっての方針及び手続について、当社ウェブサイトにて公表しております「コーポレート・ガバナンス基本方針」の第15条、第16条及び第19条に記載しておりますので、ご参照ください。

(5) 取締役会が経営陣幹部の選解任と取締役・監査役候補の指名を行う際の、個々の選解任・指名についての説明

当社は、取締役・監査役候補者の選任理由につきましては、株主総会招集通知に記載しております。

招集通知 (<https://www.rockfield.co.jp/ir/library/meeting/>)

【補充原則3-1-3 サステナビリティについての取組み等】

<サステナビリティについての取組み>

当社のサステナビリティについては、当社ウェブサイトにて公表しておりますので、ご参照ください。

なお、当社は2022年より気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言への賛同を表明するとともに、TCFD提言に基づく情報開示を行っております。

当社ウェブサイト(<https://www.rockfield.co.jp/sustainability/#content01>)

<知的財産への投資等>

知的財産への投資については、当社社名・店舗ブランド名称・商品名称等を主に日本国内において商標登録し事業活動において活用するとともに、必要に応じて商品の製造等に関する特許への投資をしております。

【補充原則4-1-1 取締役会の役割・責務(1)】

当社は、取締役会の役割について、当社ウェブサイトにて公表しております「コーポレート・ガバナンス基本方針」の第13条に記載しておりますので、ご参照ください。

【原則4-9 独立社外取締役の独立性判断基準及び資質】

当社は、社外役員の独立性判断基準を定め、その基準を充足する者を、独立社外取締役として選任しております。当社ウェブサイトにて公表しております「コーポレート・ガバナンス基本方針」の第14条及び別紙2に記載しておりますので、ご参照ください。

【補充原則4-10-1 任意の仕組みの活用】

当社は、取締役・監査役候補者の指名・報酬などの特に重要な事項の検討にあたり、取締役会にて独立社外取締役の適切な関与・助言を得ております。また、取締役会の下に、諮問機関として、過半数の独立社外取締役を含む3名以上の取締役により構成する任意の指名・報酬委員会を設置しております。指名・報酬委員会は、取締役会の諮問を受け、取締役の指名・報酬の基本方針や決定プロセス等について審議し、取締役会に対して答申を行っております。

【補充原則4-11-1 取締役会・監査役会の実効性確保のための前提条件(取締役会の多様性及び規模)】

当社は、取締役会の全体としてのバランス・規模に関する考え方について、当社ウェブサイトにて公表しております「コーポレート・ガバナンス基本方針」の第14条及び第15条に記載しておりますので、ご参照ください。また、株主総会招集通知において、取締役の選任理由として個々の経歴や能力を記載するとともに、スキル・マトリックスとして取締役会が備えるべきスキルとその定義、各取締役の有するスキルの組み合わせを開示しております。

招集通知 (<https://www.rockfield.co.jp/ir/library/meeting/>)

【補充原則4-11-2 取締役会・監査役会の実効性確保のための前提条件(兼任状況)】

当社は、取締役・監査役の兼任状況を株主総会招集通知にて毎年開示を行っております。

招集通知 (<https://www.rockfield.co.jp/ir/library/meeting/>)

【補充原則4-11-3 取締役会・監査役会の実効性確保のための前提条件(取締役会の実効性評価)】

当社の取締役会の実効性評価について、有価証券報告書にて公表しておりますので、ご参照ください。

【補充原則4-14-2 取締役・監査役のトレーニング】

新任役員については、就任にあたり、その役割・義務・責任等の知識の習得を目的に外部セミナーを受講しております。また、取締役会に合わせ当社のファクトリーなどを視察し、取締役会で決定した設備投資の効果を確認するなど会社理解を深める取り組みを行っており、2026年4月期については株式会社東京証券取引所より講師を招き、取締役・監査役全員を対象とした企業価値向上にむけた勉強会を2回実施するなど必要に応じた知識習得の機会を設けております。

【原則5-1 株主との建設的な対話に関する方針】

当社は、株主との建設的な対話を促進するための体制整備・取組みに関する方針について、当社ウェブサイトにて公表しております「コーポレート・ガバナンス基本方針」の第29条及び別紙に記載しておりますので、ご参照ください。

2026年4月期につきましては、以下のとおり対話を実施いたしました。

- ・機関投資家向け決算説明会 年2回、25社(対応者:代表取締役、常務取締役)
- ・資産運用会社・証券会社アナリストとの個別面談 年2回、5社(対応者:代表取締役、常務取締役)その他、経営企画部IR担当者が個別にオンライン等で随時実施。
- ・国内金融機関との個別面談 年2回、7社(対応者:執行役員 管理本部長)
- ・個人株主向け会社見学会 年2回、各回80名、オンラインで実施(対応者:代表取締役、常務取締役)

【資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応】

記載内容 更新	取組みの開示(アップデート)
英文開示の有無	無し
アップデート日付 更新	2026年7月29日

該当項目に関する説明

当社は、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応については、統合報告書P36において開示しております。

統合報告書: <https://pdf.irpocket.com/C2910/KfQV/sGqa/wKLT.pdf>

2. 資本構成

外国人株式保有比率	10%未満
-----------	-------

【大株主の状況】 更新

氏名又は名称	所有株式数(株)	割合(%)
株式会社岩田	2,300,000	8.80
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,672,700	6.40
ロック・フィールド取引先持株会	1,474,980	5.64
明治安田生命保険相互会社	1,312,600	5.02
株式会社四国銀行	1,242,920	4.75
岩田弘三	784,200	3.00
ロック・フィールド社員持株会	544,594	2.08
株式会社みなと銀行	413,120	1.58
ニューコウチビル株式会社	332,000	1.27
株式会社三菱UFJ銀行	307,696	1.18

支配株主(親会社を除く)の有無	——
親会社の有無	なし

補足説明

3. 企業属性

上場取引所及び市場区分	東京 プライム
決算期	4 月
業種	食料品
直前事業年度末における(連結)従業員数	1000人以上
直前事業年度における(連結)売上高	100億円以上1000億円未満
直前事業年度末における連結子会社数	10社未満

4. 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

5. その他コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与えうる特別な事情

経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

1. 機関構成・組織運営等に係る事項

組織形態	監査役設置会社
------	---------

【取締役関係】

定款上の取締役の員数	10 名
定款上の取締役の任期	1 年
取締役会の議長	社長
取締役の人数	6 名
社外取締役の選任状況	選任している
社外取締役の人数	2 名
社外取締役のうち独立役員に指定されている人数	2 名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係()										
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k
柚木和代	他の会社の出身者											
北嶋紀子	弁護士											

会社との関係についての選択項目

本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「○」、「過去」に該当している場合は「 」

近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「●」、「過去」に該当している場合は「▲」

- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
- b 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役

- c 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- d 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- e 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- f 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- g 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
- h 上場会社の取引先(d、e及びfのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
- i 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
- j 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)
- k その他

会社との関係(2)

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
柚木和代	○	柚木和代氏は、1983年3月に株式会社大丸(現株式会社大丸松坂屋百貨店)に入社し、2008年5月に同社執行役員に就任以降、2022年4月まで同社の要職を歴任しておりました。同社と当社とは直接的な取引関係を有しており、その取引額は直近事業年度における当社の連結売上高の5.8%ですが、同氏は2022年4月に同社の執行役員を退任しており、同氏の独立性に影響を及ぼす恐れがないと判断しております。	柚木和代氏は当社の経営陣から独立しており、企業経営者として豊富な経験と知見に基づき、実践的な観点から取締役会の適切な意思決定と経営監督をしていただくため、社外取締役として選任しております。また、一般株主と利益相反の生じるおそれがないと判断して独立役員として届け出ております。
北嶋紀子	○	——	北嶋紀子氏は当社の経営陣から独立しており、弁護士としての企業法務等に関する豊富な経験と高度な専門的知見に基づき、ガバナンスの強化を通じて取締役会の適切な意思決定と経営監督をしていただくため、社外取締役として選任しております。また、一般株主と利益相反の生じるおそれがないと判断して独立役員として届け出ております。

指名委員会又は報酬委員会に相当する
任意の委員会の有無

あり

任意の委員会の設置状況、委員構成、委員長(議長)の属性

	委員会の名称	全委員(名)	常勤委員(名)	社内取締役(名)	社外取締役(名)	社外有識者(名)	その他(名)	委員長(議長)
指名委員会に相当する任意の委員会	指名・報酬委員会	3	0	1	2	0	0	社内取締役
報酬委員会に相当する任意の委員会	指名・報酬委員会	3	0	1	2	0	0	社内取締役

補足説明 更新

指名・報酬委員会は、次の事項のうち、取締役会から諮問を受けた事項について、審議し、取締役会に対して答申することとしております。

- ・後継者計画の策定・運用に関する事項
- ・取締役会の構成・バランスに関する事項
- ・取締役の選解任の方針、基準及び手続に関する事項
- ・取締役の選任及び解任に関する事項
- ・代表取締役及び役付取締役の選定及び解職に関する事項
- ・取締役の報酬体系並びに報酬決定の方針及び手続に関する事項
- ・取締役の個人別の報酬等の内容に関する事項
- ・その他、取締役会が必要と判断した事項

指名・報酬委員会の委員の選定は、取締役会で決定することとしております。

- ・委員長 代表取締役社長 古塚孝志
- ・委員 社外取締役 柚木和代、社外取締役 北嶋紀子
- ・事務局 管理本部・人事本部管掌取締役(常務取締役 吉井康太郎)

指名・報酬委員会の活動状況につきましては、有価証券報告書にて公表しておりますので、ご参照ください。
有価証券報告書 (<https://www.rockfield.co.jp/ir/library/securities/>)

【監査役関係】

監査役会の設置の有無	設置している
定款上の監査役の数	5 名
監査役の人数	3 名

監査役、会計監査人、内部監査部門の連携状況

1. 監査役は、会計監査人より監査の体制、監査計画の報告を受け、意見交換を行います。監査役会で監査体制、監査計画の網羅性等につき検討を加え監査計画の妥当性の評価を行っています。また、監査役は会計監査人の期中の事業所往査に随時同行し、監査結果について講評を得ています。また、四半期・期末監査、内部統制監査にも随時立ち会い、監査結果の報告を受け、監査役会で相当性の判断をします。
2. 監査役は、内部監査部門より監査計画と監査重点項目について報告を受けています。監査結果については監査役にも監査報告書が回付され、監査役は、必要に応じて説明を求め、場合によっては更なる調査を要請します。
3. 監査役、会計監査人及び内部統制部門は、必要の都度相互に情報交換を行うなど連携を密にして監査の実効性と効率性の向上を目指しています。

社外監査役の選任状況	選任している
社外監査役の人数	2 名
社外監査役のうち独立役員に指定されている人数	2 名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係()												
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m
三戸一弥	その他													
米田小百合	公認会計士													

- 会社との関係についての選択項目
本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「○」、「過去」に該当している場合は「△」
近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「●」、「過去」に該当している場合は「▲」
- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
b 上場会社又はその子会社の非業務執行取締役又は会計参与
c 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
d 上場会社の親会社の監査役
e 上場会社の兄弟会社の業務執行者
f 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
g 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
h 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
i 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
j 上場会社の取引先(f、g及びhのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
k 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
l 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)
m その他

会社との関係(2)

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
三戸一弥	○	——	三戸一弥氏は元警察署長としての豊富な経験と幅広い知見を有しており、公正かつ中立の視点から監査業務を遂行いただけるものと判断して社外監査役として選任しております。また、一般株主と利益相反の生じるおそれがないと判断して独立役員として届け出ております。
米田小百合	○	——	米田小百合氏は公認会計士・税理士として税務・会計・財務に関する高度な専門的知見と豊富な経験を有しており、公正かつ中立の視点から監査業務を遂行いただけるものと判断して社外監査役として選任しております。また、一般株主と利益相反の生じるおそれがないと判断して独立役員として届け出ております。

【独立役員関係】

独立役員の人数	4 名
---------	-----

その他独立役員に関する事項

独立役員の資格を充たす社外役員を全て独立役員に指定しております。

【インセンティブ関係】

取締役へのインセンティブ付与に関する施策の実施状況	業績連動報酬制度の導入、その他
---------------------------	-----------------

該当項目に関する補足説明

株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的として、2018年7月26日開催の第46回定時株主総会において、譲渡制限付株式の付与による株式報酬制度を導入しております。
また、2025年7月25日開催の第53回定時株主総会において、業績連動報酬の導入に伴う取締役報酬等の額改定を決議し、社内取締役に対し、法人税法上の業績連動給与とすることを企図した業績連動報酬を導入しております。本制度の導入による、業績連動報酬の評価指標の基準値達成時の、社内取締役の個人別報酬に占める固定報酬・業績連動報酬及び株式報酬の割合は、全ての役位で概ね7:2:1としております。
なお、社外取締役及び監査役の報酬は、独立の立場を考慮し、定額報酬のみとしております。

ストックオプションの付与対象者

該当項目に関する補足説明

——

【取締役報酬関係】

(個別の取締役報酬の)開示状況	個別報酬の開示はしていない
-----------------	---------------

該当項目に関する補足説明 更新

2026年4月期に係る役員区分ごとの報酬等の総額等は次のとおりであります。

取締役 5名 117百万円【金銭報酬(固定報酬):102百万円、非金銭報酬等:14百万円】
社外取締役 4名 19百万円【金銭報酬(固定報酬):19百万円、非金銭報酬等:—】

監査役 1名 10百万円【金銭報酬(固定報酬): 10百万円、非金銭報酬等:—】
社外監査役 3名 10百万円【金銭報酬(固定報酬): 10百万円、非金銭報酬等:—】

- (注) 1. 取締役の報酬等の総額及び員数には、2025年7月25日開催の第53回定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任した取締役1名を含んでおります。
2. 社外取締役の報酬等の総額及び員数には、2025年7月25日開催の第53回定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任した取締役2名を含んでおります。
3. 社外監査役の報酬等の総額及び員数には、2025年7月25日開催の第53回定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任した監査役1名を含んでおります。

報酬の額又はその算定方法の決定方針の有無

あり

報酬の額又はその算定方法の決定方針の開示内容

取締役及び監査役の報酬は、株主総会において決議された取締役における総額及び監査役における総額のそれぞれの範囲内としております。各取締役への報酬の配分は、役員報酬規程及び株式報酬規程に基づき、取締役報酬決定システムを参照し、取締役会の諮問機関である指名・報酬委員会にて審議のうえ、取締役会において決定しております。

監査役の報酬の額は、常勤監査役と非常勤監査役の別、業務の分担等を勘案し、監査役の協議により決定しております。

【社外取締役(社外監査役)のサポート体制】

社外取締役をサポートする体制として、取締役会事務局担当部門である総務部がその役割を担い、社外取締役に対する経営情報の伝達、取締役会の開催案内、会議資料などの事前配布、議事録の回付等を行っております。

また、社外監査役をサポートする体制として、必要に応じて常勤監査役及び監査役の補助使用人がその役割を担い、社外監査役に対する重要な事項の説明、報告を行っております。

【代表取締役社長等を退任した者の状況】

元代表取締役社長等である相談役・顧問等の氏名等

更新

氏名	役職・地位	業務内容	勤務形態・条件 (常勤・非常勤、報酬有無等)	社長等退任日	任期
岩田 弘三	名誉会長	無し	非従事、無報酬	2023/7/26	定めなし

元代表取締役社長等である相談役・顧問等の合計人数

1 名

その他の事項

更新

当該者は創業者であり、当社の歴史的経緯を踏まえ、名誉的な位置づけとして役職名を付しております。

経営の意思決定、業務執行および取締役会への関与は一切なく、報酬の支払いもありません。

2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項(現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要)

更新

(1) 取締役会は、社外取締役2名を含む6名で構成され、原則毎月1回の定例取締役会のほか、必要に応じ臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項、経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行の状況を監督しております。社外取締役2名は当社の経営陣から独立しており、豊富な経験と知見に基づき実践的な観点から取締役会の適切な意思決定と経営監督をしていただいております。

(2) 急激な経営環境変化に対応し迅速な意思決定と業務執行を行うため、取締役会で付議すべき事項の事前審議及び取締役会で決定した基本方針に基づき、その業務遂行方針・計画・実施等に関する協議機関として、取締役、執行役員、監査役、部門長をメンバーとする経営幹部会議を毎月2回開催しております。

また、執行役員制度を採用し、取締役会で選任した執行役員を取締役に参加させるなど、経営陣幹部の後継者育成に努めております。

(3) 取締役候補者は代表取締役が提案し、任意の指名・報酬委員会の答申を受け、取締役会の承認を得た後、株主総会の決議により取締役に選任しております。

(4) 監査役会は、3名で構成され、うち社外監査役2名で、その中の1名は公認会計士・税理士で、原則毎月1回開催しております。監査役会は、監査方針・監査計画及び監査業務の分担を定め、各監査役は取締役会及び経営幹部会議等の重要会議に出席し意見を述べるほか、代表取締役

との意見交換、取締役及び使用人からの業務執行状況の聴取、事業所監査の実施など取締役の業務執行状況を監査しております。

(5) 会計監査は、有限責任監査法人トーマツが監査業務にあたっております。2026年4月期において会計監査業務を行った公認会計士は、菱本恵子(継続監査年数1年)、福井さわ子(継続監査年数6年)の2名であります。監査業務に係わる補助者の人数は、公認会計士11名、その他15名であります。

(6) 当社は、社外役員として有能な人材を迎えることができるよう、2006年7月25日開催の第34回定時株主総会で定款を変更し、社外取締役及び社外監査役の責任限定契約に関する規程を設けております。当社は社外取締役及び社外監査役全員と当該契約を締結しております。なお、当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令で定める最低責任限度額であります。

3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由

当社は、企業価値の最大化と株主価値の向上を実現し、継続的な発展と成長を目指すために、監査役会設置会社を採用しています。取締役会に対する十分な監視機能を発揮するため、取締役6名中、豊富な経験と知見を有する社外取締役2名が独立かつ公正な立場から取締役の業務執行を監督しています。また、高い専門性を有する社外監査役2名と社内に精通した監査役1名がそれぞれ経営監視を実行しております。社外役員全員が、独立役員の資格を充たしており、当社との人的関係、取引関係その他の利害関係において当社の一般株主との利益相反が生じるおそれなく、独立役員として選任しております。これらの体制により、十分なコーポレートガバナンスを構築しております。

株主その他の利害関係者に関する施策の実施状況

1. 株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取組み状況 更新

	補足説明
株主総会招集通知の早期発送	当社の第54回定時株主総会は2026年7月28日に開催いたしました。本総会においては、株主総会開催日の約3週間前に招集通知を発送しております。また、発送の約1週間前に当社ホームページに招集通知のデータを掲載しております。
電磁的方法による議決権の行使	2003年開催の第31回定時株主総会より電磁的方法による議決権の行使を導入いたしております。
議決権電子行使プラットフォームへの参加 その他機関投資家の議決権行使環境 向上に向けた取組み	2024年7月26日開催の第52回定時株主総会より、株式会社ICJが運営する機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームを利用しております。また、招集通知の英訳については、2022年7月27日開催の第50回定時株主総会より、狭義の招集通知と株主総会参考書類の英訳を実施しております。
招集通知(要約)の英文での提供	グローバルな資本市場に対応するため、2022年7月27日開催の第50回定時株主総会より、狭義の招集通知と株主総会参考書類の英訳を実施し、株主総会開催日の約3週間前に当社ホームページにデータを掲載しております。
その他	株主総会の活性化を図るため、事業報告及び計算書類の報告をビジュアル化するなど、株主が理解しやすい総会運営を心掛けるとともに、株主総会に先立ち事前質問を受け付け、株主からの関心事項の把握及び適切な情報提供に努めております。また、株主総会の終了後に当日の様子を当社ウェブサイトにて約2か月間にわたり公開するなど、当日出席ができない株主への情報提供を行っております。

2. IRに関する活動状況 更新

	補足説明	代表者 自身による説明の有無
ディスクロージャーポリシーの作成・公表	ディスクロージャーポリシーを制定し、当社ウェブサイト上に掲載しております。 (URL) https://www.rockfield.co.jp/ir/disclosure/	
アナリスト・機関投資家向けに定期的説明会を開催	期末、第2四半期決算発表後、オンラインにてアナリスト・機関投資家への決算説明会を実施し、あわせてアナリスト・機関投資家を個別訪問し、決算内容の説明を実施しております。	なし
IR資料のホームページ掲載	決算短信、決算説明会資料、有価証券報告書、半期報告書、招集通知、中期経営計画、適時開示資料	
IRに関する部署(担当者)の設置	経営企画部内にIR担当を設置し、専任の担当者が対応しております。	

3. ステークホルダーの立場の尊重に係る取組み状況

	補足説明
社内規程等によりステークホルダーの立場の尊重について規定	「ロック・フィールド行動規範」においてステークホルダーの立場の尊重について規定しています。
環境保全活動、CSR活動等の実施	当社ホームページのサステナビリティ特集ページにて、「環境」「社会」「ガバナンス」からなる3つのESGの視点で取り組みをまとめております。 (URL) https://www.rockfield.co.jp/sustainability/
ステークホルダーに対する情報提供に係る方針等の策定	「ロック・フィールド行動規範」において、従業員、お客様、取引先、株主、地域社会、一般社会に対する情報開示について基本方針を定めております。また、「ディスクロージャーポリシー」に基づき適切に開示しております。

内部統制システム等に関する事項

1. 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況 更新

- 当社及び当社の子会社（以下「当社グループ」という）の取締役及び使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - 企業経営者として豊富な経験と知見に基づき実践的な視点から取締役会の適切な意思決定と経営監督のため、会社から独立した社外取締役を選任する。
 - 取締役会の任意の諮問機関として、委員の過半数を独立した社外取締役で構成する指名・報酬委員会を設置し、取締役の選任・解任、報酬決定の手続き等について、客観性と透明性を確保する。
 - 豊富な経験と知見を持ち、独立かつ中立の視点から取締役の職務執行を監査するため、取締役から独立した社外監査役を選任する。
 - 当社グループは、取締役及び使用人の業務執行が法令及び定款に適合することを確保するため当社グループ全体の行動規範「ロック・フィールド行動規範」を制定し、法令順守、企業倫理の徹底に取り組む。
 - 当社グループ取締役及び使用人に対し、「ロック・フィールド行動規範」の徹底と実践運用を行うため、必要な教育・研修を実施する。
 - 代表取締役を議長とし、取締役、執行役員、監査役、その他必要な人員を構成員とするコンプライアンス委員会を設置する。
 - 職制を通じて報告、是正ができないコンプライアンス違反の情報確保のため、内部通報の窓口を設置し、コンプライアンス違反の早期発見、早期是正、再発防止に努める。
 - 当社グループは、反社会的勢力・団体に対して、法令に則し毅然とした態度で臨み、一切の関係を持たない。
 - 業務執行部門から独立した内部監査部門を設置し、各部門の業務プロセス等を監査し、不正の発見、防止とプロセスの改善に努める。
 - コンプライアンスに関する規程その他の取り組み状況について、ステークホルダー（お客様、株主、投資家、社会等）に対して積極的に開示する。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- 文書管理規程を制定し、次の文書（電磁的記録を含む）について関連資料とともに10年間保管し、管理するものとする。
株主総会議事録
取締役会議事録
計算書類
稟議書
その他取締役会が決定する文書
- 前項にあげる文書以外の文書についても、その重要度に応じて、保管期間、管理方法等を文書管理規程で定めるものとする。
- 取締役及び監査役は常時、これらの文書を閲覧できるものとする。
- 代表取締役は、取締役及び使用人に対して、文書管理規程に従って文書の保存、管理を適正に行うよう指導するものとする。

3. 損失の危険の管理に関する体制

- リスク管理の基本方針を定めた危機管理規程を制定し、当社グループに重大な影響を及ぼすリスク全般の管理を行い、リスクの未然防止及びリスク発生時の被害の最小化、再発防止が行える体制を整備する。
- リスクその他の重要情報の適時開示を果すため、経営者に直ちに報告すべき重要情報の基準の策定、報告された情報が開示すべきものかどうかを判断する開示基準を策定する。
- 大規模な事故、災害、不祥事等が発生した場合は、必要な人員で構成する緊急事態対策本部を設置する等危機対応のためのマニュアル、組織を整備する。

4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- 当社グループの取締役及び使用人全員が共有する企業理念、価値観を定め、この浸透を図るとともに、これらに基づき中期経営計画を策定する。
- 取締役会は中期経営計画を具体化するため、毎期、部門ごとの業績目標と事業計画を設定する。設備投資、新規事業については、原則として中期経営計画の目標達成への貢献を基準にその優先順位を決定する。同時に各部門への効率的な人的資源の分配を行う。
- 各部門を担当する取締役、執行役員、部門長は、各部門が実施すべき具体的な施策及び権限分配を含めた効率的な業務遂行体制を決定する。
- 月次の業績は、ITを積極的に活用したシステムにより、月次で迅速に管理会計データ化し、担当取締役、部門長は取締役会に報告する。
- 取締役会は、毎月、この結果をレビューし、担当取締役、部門長に目標未達成の原因の分析、その要因を排除、低減する改善策を報告させる。
- (5)の議論をふまえ、各部門を担当する取締役、部門長は各部門が実施すべき具体的な施策及び権限分配を含めた効率的な業務遂行体制を構築する。

5. 当社グループからなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

- (1) 関係会社管理規程を制定し、子会社の管理部署、管理責任者を定める。
- (2) 管理責任者は、子会社に当社グループの企業理念、価値観及び行動規範の徹底が図れるよう助言指導し、法令順守体制及びリスク管理体制を確保させるとともに、子会社と連携し、グループ各社における内部統制の状況を把握し、必要に応じて改善策を指導する。
- (3) 子会社の経営責任者は、子会社の経営成績、財務状況その他重要な情報について当社への報告を義務づける。
- (4) 内部監査部門は子会社の内部監査を実施する。

6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項並びに当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

- (1) 監査役よりその職務を補助すべき使用人の配置の求めがあった場合には、監査役と協議のうえ人選を行う。
- (2) 当該使用人の処遇、異動等の人事については、常勤監査役と事前に協議を行い、同意を得たうえで決定する。
- (3) 当該使用人が他部署の使用人を兼務する場合には、監査役に係る業務を優先して従事するものとする。

7. 監査役への報告に関する体制並びに報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利益な扱いを受けないことを確保するための体制

- (1) 取締役及び使用人は、監査役から業務執行に関する事項の報告を求められた場合は、速やかに報告しなければならない。
- (2) 取締役及び使用人は、監査役に対して、法令に違反する事実、会社に著しい損害を与えるおそれのある事実を発見したときには、当該事実に関する事項を速やかに報告しなければならない。
- (3) 内部監査部門は、監査の結果を適時、適切な方法により監査役に報告する。
- (4) 内部通報制度による通報の状況については速やかに監査役に報告する。
- (5) 監査役への報告を行った取締役及び使用人に対し、当該報告を行ったことを理由として不利益な扱いをしないものとする。

8. 監査役が監査を実効的に行われることを確保するための体制

- (1) 監査役は、代表取締役及び社内取締役と経営の現状や重要な課題について定期的に意見及び情報交換を行い、適切な意思疎通及び効果的な監査業務の遂行を図る。
- (2) 監査役は、内部監査部門と適宜意見交換を行うとともに連携して監査業務を遂行する。
- (3) 監査役は、重要な会議に出席できるとともに稟議書類等業務執行に係る重要な書類を閲覧し、重要な意思決定の過程や業務の執行状況を把握する。
- (4) 監査役が職務遂行にあたり、監査役が必要と求めた場合は、弁護士、公認会計士等の外部専門家と連携を図ることのできる環境を整備する。
- (5) 監査役が、その職務の遂行について費用の前払い等の請求をしたときは、担当部署で審議のうえ、当該請求に係る費用又は債務が当該監査役の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理する。

9. 財務報告の適正性を確保するための体制

- (1) 代表取締役等は、適正な財務報告の作成が会社にとって最重要事項であることを取締役及び使用人に認識させるため、会議等で指示、訓示等必要な意識付けを行う。
- (2) 各業務において行われる取引の発生から、各業務の会計システムを通じて財務諸表が作成されるプロセスの中で、虚偽記載や誤りが生じる要点をチェックして、業務プロセスの中に不正や誤りが生じないような内部統制システムその他のシステムを構築、運用する。また、その構築、運用のための横断的な組織を設ける。
- (3) 内部監査部門は、財務報告に係わる内部統制システムの構築、運用状況を監査し、監査結果を代表取締役、担当取締役及び監査役に報告する。

2. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社は「ロック・フィールド行動規範」で社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは関係を持たないことを明示し社内外に宣言しています。

- (1) 反社会的勢力による不当要求に対しては危機管理室が担当し、担当取締役、経営トップ以下組織全体として対応することとしています。
- (2) 有事には警察、関係行政機関及び弁護士に相談のうえ、不当要求には決して応じることなく、法的対抗手段を講じることとします。
- (3) 平素から警察、関係行政機関及び暴力排除団体との連携を図り、情報収集に努めています。
- (4) 「企業対象暴力対応マニュアル」を整備しております。
- (5) 「ロック・フィールド行動規範」及び「企業対象暴力対応マニュアル」を役職員に周知徹底しております。

その他

1. 買収への対応方針の導入の有無

買収への対応方針の導入の有無

なし

該当項目に関する補足説明

2. その他コーポレート・ガバナンス体制等に関する事項

適時開示体制の概要

当社は、株主、投資家の皆様に対し、経営方針、事業戦略、財務状況に関する情報を透明性、公平性、継続性を基本として適時開示し、ご理解を得られるように努めています。

1. 基本方針

金融商品取引法及び証券取引所の定める適時開示規則を遵守した情報の開示を行います。適時開示規則に該当しない場合でも、株主、投資家の皆様に当社をご理解いただくために重要あるいは有益であると判断した情報につきましては積極的に開示します。

2. 適時開示に係る社内体制

- (1) 当社の情報は、管理本部総務部に集約することとしています。総務部は取締役会の事務局を担当し、執行役員 管理本部本部長が重要な会議に出席することにより、重要な情報を網羅的に収集できる体制となっております。
- (2) 情報収集部署である総務部は、集約された情報につき、執行役員 管理本部本部長の指揮のもと適時開示規則及び関連諸法令に基づき、また任意開示の是非も考慮したうえで情報開示の要否の判断を行います。
- (3) 決定事実や決算情報については、取締役会決議が必要とされる場合は、取締役会の承認を得たうえで直ちに開示します。発生事実などで緊急を有する場合は、代表取締役が開示の決定を行い、開示しますが、その後の取締役会での事後報告とする場合があります。
- (4) 情報開示は、東京証券取引所の提供する「適時開示情報伝達システム(TDnet)」へ登録し、開示します。
- (5) TDnetへの登録・開示後、速やかに当社ホームページに掲載し、株主及び投資家等が習得し易い措置を施しています。

3. 開示情報のモニタリング

監査役及び内部監査担当部署(内部統制室)は、開示すべき会社情報の正確性と開示制度・基準との整合性を確保するためのチェックを行います。

4. 内部者取引の防止

当社では重要情報の取扱いに関して「内部者取引管理規程」を定め、インサイダー取引の防止を徹底しております。

会社情報の適時開示に係る社内体制



